

只見の資源を活かす

「商品づくり・販路開拓セミナー」を開催

7月5日、只者じゃないブランド推進委員会が主催する「商品づくり・販路開拓セミナー」が只見振興センターで開かれ、事業者約20名が参加しました。

セミナーでは、新商品の企画など全国で活躍するビジネスプロデューサーの内田研一氏を講師に迎え、ブランドとは「信用」であり「約束」を守り続けることと説明され、他地域のブランド化事例を交えて講演されました。また、只見町が狙うべき方向性や素材から考える商品・サービスづくりの方法が伝えられ、参加者は今後の商品づくりのために熱心に聞き入っていました。



▲ブランドは一貫性を守り、つくりあげていくことが重要と説く内田研一氏



◀おもちゃすくいを楽しむ親子連れの皆さん

新しい催しで賑わう

「亀岡トレーラーハウス祭り」開催

7月8日、朝日地域づくり委員会が主催する「亀岡トレーラーハウス祭り」が亀岡多目的活性化広場内で開かれ、縁日(まつり)とグランドゴルフ大会が行われました。トレーラーハウス前で催された縁日は、「綿あめ」や「おもちゃすくい」、「くじ引き」などが子どもたちの人気を集め、トレーラーハウスと共に賑わいを見せていました。

また、サッカー場で行われたグランドゴルフ大会には約50名が参加し、熱戦を勝ち抜いた1～5位入賞者には記念品が贈られました。



▶白熱したグランドゴルフ大会

最新技術の普及を目指す

「ドローン体験教室」開催

7月22日、ドローンを活用し自分の職業能力などを高め、新しい技術の普及を目指した「ドローン体験教室(教育委員会主催)」が町下体育館で開かれ、小学生から大人まで約20名が参加しました。

教室は、これまでドローンのパイロット約100名を育成してきた(株)スペースワンの協力により行われ、大・小2種類のドローン操作の体験をしました。参加者はドローンの操作だけではなく、スマートフォンと連動した空撮などを体験し、技術を磨くことができました。町でも既に災害や捜索などで活用しており、今後自然調査などにも活用していく予定です。



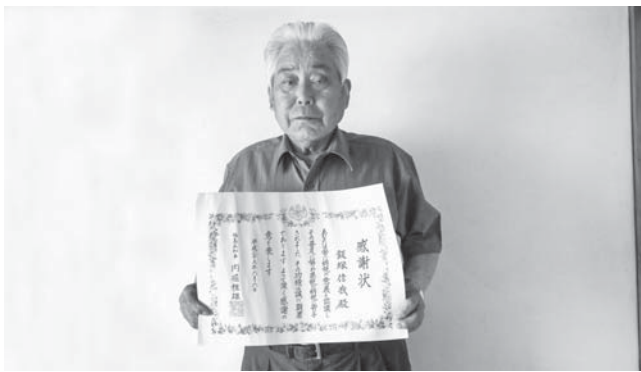
▲外で行われたデモ飛行で参加者を空撮した写真



◀体育館内でドローンを操作する参加者

大倉中地納税貯蓄組合長に 知事から感謝状

6月6日、福島県庁で開催された「第51回福島県納税貯蓄組合連合会定時総会」において、大倉中地納税貯蓄組合長の飯塚信哉さんが納税功労者に決定し、知事から感謝状が贈られました。飯塚さんは、17年に渡り大倉中地納税貯蓄組合長を務め、平成27年度には南会津地方振興局長からも納税功労者として感謝状を受賞していることから今回選ばれました。今後も、大倉中地納税貯蓄組合長としての活躍が期待されます。



▲知事感謝状を手にする大倉中地納税貯蓄組合長の飯塚さん

身近な野草の効能・調理方法を学ぶ ノラサン「野草教室」開催

7月8日、身近な野草で健康づくりを目指す団体ノラサンが主催する「野草教室」が只見振興センターで開かれ、町民19名が参加しました。講師に日本の薬草の著者である貝津好孝先生を迎え、野草の効能・調理方法などを学びました。町内の草むらや林道でツルニンジンやユキノシタなど16種類を採取し、酢の物や天ぷらなどに調理して試食しました。参加者からは「身近な野草で作った料理が思ったより食べやすく美味しかった」などの感想が聞かれました。



▲食べられる野草の判別や効能、調理方法を伝える貝津先生（左前）

只見町と魚沼市で清掃ボランティア 国道252号六十里越雪わり街道

7月7日、只見町と新潟県魚沼市の「国道252号六十里越雪わり街道を愛する会」主催の清掃ボランティアが行われ、両市町から約90名が参加しました。只見町の宮淵から魚沼市の大白川間で行われた清掃は両側からスタートし、道路沿いに捨てられたゴミを回収していき、アイヨシの滝で合流しました。合流後は交流会が行われ、冷汁やおにぎりなどが振る舞われ、参加者は懇親を深めました。



▲景観を守るためにゴミを回収する参加者の皆さん

生活に欠かせない「水」の大切さを学ぶ 各小学校で上下水道施設を見学

7月、各小学校で水の大切さなどを学ぶ上下水道施設見学教室が行われ、それぞれ最寄りの施設を見学しました。見学では、上水道施設で生活に必要な飲料水の作り方を学び、下水処理施設では水をきれいにして川に流す水の循環を学びました。また、朝日小学校ではリサイクルセンターで汚泥を資源としたコンポストの仕組みなどを見学し、児童たちは環境への理解を深めました。



▲下水処理場で水の循環を学ぶ只見小児童の皆さん

戊辰戦争の真実に迫る

「奥羽越列藩同盟と加茂軍議」講演会

7月23日、河井継之助と只見・加茂の深い関わりを伝える「奥羽越列藩同盟と加茂軍議」講演会が只見振興センターで開催され、約100名が来場しました。

開催にあたり、主催者である加茂商工会議所の太田明会頭から、戊辰戦争から150年目を来年迎えるにあたり、講演会を小千谷市、会津若松市、米沢市に続き、今回只見町で開催した経過などが述べられました。

講演では、長岡市河井継之助記念館の稲川明雄館長から、越後における戊辰戦争の運命に深く関わった長岡藩士・河井継之助の歴史や、西軍により一度は落城した長岡城を奪還しようと越後の

加茂に会津藩、米沢藩を始め奥羽越諸藩が集まり長岡城の奪還作戦を図った「加茂軍議」の意義などが説明されました。只見町では河井継之助の終焉の地とされていますが、新潟県側の戊辰戦争の歴史などが紹介され、来場者は戊辰戦争や河井継之助の歴史について理解を深めることができました。



▲戊辰戦争の歴史を伝える稲川館長

只見町ブナセンター

ブナセンター講座

「雪を味方につけた植物たち」

7月15日、植物と雪との関係をテーマにしたブナセンター講座が同施設で開催され、22名が参加しました。講師は植物の分類や進化と多様性について研究する首都大学東京・牧野標本館の加藤英寿氏で、雪が植物の生育に与える影響や日本海側を中心に分布する植物(日本海要素植物)と太平洋側に分布する対照種との形態的な違い、そして多雪環境に適応した植物の生理・生態などについて解説されました。ハイイヌガヤやエゾユズリハ、ユキツバキなど只見町では身近な植物が話題として取り上げられ、参加者は雪という只見町の最も特徴的な自然環境と植物の関係について理解を深めることができました。



▲講師の加藤英寿氏と参加者



▲日本海要素植物の解説を受ける参加者

自然観察会

「夏のブナ林で日本海

要素植物を観察しよう！」

7月16日、日本海要素植物を観察する自然観察会が「蒲生集落・あがりこの森(ただみ観察の森)」で開催され、町内外から23名が参加しました。このブナ林の林床には、ユキツバキやエゾユズリハといった日本海要素植物が生育しており、ユキツバキの地面をはうような樹形、エゾユズリハの古い葉と新しい葉の色の違いなどを観察しました。前出の講師である加藤氏やブナセン

ター職員から日本海要素植物の生態や生育環境、あがりこの森における自然資源利用の歴史などについて説明を受け、参加者はブナ林の林床に生育する身近な日本海要素植物について学びました。

自然首都で農業を始めてみませんか 新規就農者を応援します!!

只見町では、新規就農者を積極的に支援しています。新規就農者が安心して農業の担い手になれるよう相談受付や助成制度を整えています。U・Iターン、未経験でもOK! 是非お問合せ下さい。

1. トマトでの就農の流れ(相談～面接)

◆就農相談

只見町の雪深い気候などを踏まえ、只見町で就農したいという方は、まず下記お問い合わせ先までご連絡ください。

◆就農者面接

南郷トマトの生産組合やJAなどと面接を行い、受入が決定したら次のとおりとなります。

- ・南郷トマト生産組合で研修受入農家を選定します。
- ・住居は、町で空き家を探し斡旋します。
- ・冬期間の仕事についても、相談を受けます。



2. トマトでの就農の流れ(研修～就農)

◆1年目/農業研修

- ・研修期間は4月から10月頃まで。組合から紹介された農家で南郷トマトづくりの研修を実施します。
- ・研修期間は研修費を助成します。
- ・研修期間中にトマト栽培用農地を斡旋します。

◆2年目/事業主として就農

- 1年間の研修でノウハウを学び、栽培用地や住居を確保して2年目は本格的に事業主としてトマト栽培が始まります。
- ・春にパイプハウスや灌水施設を設置。(助成制度有)
- ・その後は、仲間と相談しながら目標に向かって頑張ります!



3. 新規就農の助成制度

- パイプハウスや灌水設備などは、国・県の補助事業を活用しながら、ほぼ全額助成
- 苗・肥料などの資材について7割助成
- 借入れた農地代を5年間助成
- 農業次世代人材投資事業(旧青年就農給付金)
- 空き家(住居)の斡旋 …などなど

※年齢や同居親族、導入作物など条件があります。
詳しくは下記お問合せ先にご相談ください。

福島県南会津農林事務所では日帰り～1週間程度の農業体験プログラム「南会津ふるさとワークステイ事業」を実施しています。

只見町でも実施できますので、まずはちょっとやってみたいという方は、下記までお問い合わせください。

福島県南会津農林事務所企画部地域農林企画課
TEL:0241-62-5252 FAX:0241-62-5256
E-mail:kikaku.af05@pref.fukushima.lg.jp